

# Spectrum Digital

## XDS510PP PLUS, SPI515

第 18 版 2013. 5

### TI 社 Code Composer Studio

### インストールガイド



株式会社 ロイノス DSP ツールグループ  
TEL 053-762-3681 FAX 053-762-3682  
URL:www.roinos.com



1. 概要 .....	1	4.1 BIOS の設定 .....	2
1.1 対応プロセッサ .....	1	4.2 デバイスの確認 .....	2
1.2 システム要件 .....	1	5. Code Composer Studio のインストール .....	3
2. 取り扱い上の注意事項と保証期間 .....	1	5.1 CCS Ver4 または Ver 5 の場合 .....	4
3. 梱包内容 .....	2	5.2 CCS Ver4.1 , 4.2 の場合 .....	4
4. エミュレータ接続の設定確認 .....	2	5.3 CCS Ver3.x の場合 .....	4
		6. エミュレータ用ドライバ .....	5

6.1 概要	5	14.4 CCS の動作が遅い	20
6.2 ロイノス編集のデバイスドライバを使用した例	5	15. サポートについて	20
6.3 メーカー提供のデバイスドライバを使用した例	6	15.1 取扱い説明書	20
7. 機器の接続	6	15.2 故障修理	20
8. CCS セットアップに関する役立つ知識	7		
8.1 GEL の利用 (CCS Ver3.x 対応のため)	7		
8.2 DSK 用のパッチ	7		
8.3 マルチコアプロセッサについて	7		
9. SDConfig について	8		
10. CCS Setup から起動まで	9		
10.1 CCS Ver3.3 の汎用的設定	9		
10.2 CCS Setup Ver3.1 の場合	10		
10.3 CCS Ver3.3 の import を利用した場合	10		
11. 汎用的ボードの具体的設定(CCS3.3 の場合)	10		
11.1 DSK C6713 の場合	10		
11.2 DSK C6416 の場合	10		
11.3 EVM DM642 の場合	11		
11.4 EVM 6201 / 6701 の場合	11		
11.5 DSK C5416 の場合	12		
11.6 DSK C5510 の場合	12		
11.7 eZdsp F2812 の場合	12		
11.8 eZdsp F2808 の場合	12		
11.9 eZdspLF2407 の場合	12		
11.10 OMAP5912 OSK の場合	13		
11.11 C672x の場合(EVM C6727 の例)	14		
11.12 DSK C6455 の場合	14		
11.13 OMAP3530 の場合	15		
12. 汎用的ボードの具体的設定(CCS3.1 の場合)	16		
12.1 DSK C6713 の場合	16		
12.2 DSK C6416 の場合	16		
12.3 EVM DM642 の場合	16		
12.4 EVM 6201 / 6701 の場合	16		
12.5 DSK C5416 の場合	16		
12.6 DSK C5510 の場合	16		
12.7 eZdsp F2812 の場合	16		
12.8 eZdsp F2808 の場合	16		
12.9 eZdspLF2407 の場合	16		
12.10 OMAP5912 OSK の場合	16		
12.11 C672x の場合(EVM 6727 の例)	16		
13. CCS Ver4 の使用方法	16		
13.1 CCS のインストール	16		
13.2 デバイスドライバについて	16		
13.3 XDS510PP PLUS の認識	16		
13.4 SDConfig ユーティリティ	16		
13.4 Target Configuration	17		
13.5 接続について	19		
14. 不具合対応	20		
14.1 動作が不安定	20		
14.2 指定したデバイスドライバに対応していないというエラーがでて CCS が起動しない	20		
14.3 CCS が起動しない	20		

## 1. 概要

スペクトラムデジタル社の XDS510PP PLUS または SPI-515 とテキサス・インスツルメンツ社の Code Composer Studio を組み合わせて使用することで実機のエミュレーションを行うことができます。テキサス・インスツルメンツ社のプロセッサ TMS320 ファミリの C5000 および C6000、C2000、VC33、ARM、OMAP、DaVinci をサポートしています。ソフトロニクス社の MicePack と MicePack-LV はそれぞれスペクトラムデジタル社の XDS510PP PLUS と SPI-515 の互換品ですので、これらのエミュレータも本書の説明の対象です。

これらのエミュレータは PC のパラレルポートに接続します。そのモードは双方向(SPP8)、ECP、EPP、EPP 1.9 で接続できます。

F2xx シリーズのフラッシュメモリーの書き込みも可能です。書き込みプログラムは

- F2810,F2811,F2812用は

<http://focus.ti.com/docs/toolsw/folders/print/sprc125.html>

- F2801,F2806,F2808用は

<http://focus.ti.com/docs/toolsw/folders/print/sprc193.html>

- F241,F243用は

<http://focus.ti.com/docs/toolsw/folders/print/sprc145.html>

- F240用は

<http://focus.ti.com/docs/toolsw/folders/print/sprc143.html>

- F240x,F240xA用は

<http://focus.ti.com/docs/toolsw/folders/print/sprc141.html> を参照してください。(2006/4 月現在)

### 1.1 対応プロセッサ

C6000,C2000,C5000,VC33,ARM,OMAP,DaVinci, TMS470, TMS570, Cortex

上記のシリーズのなかでも、最新のプロセッサには必ずしも対応できない場合があります。

### 1.2 システム要件

ホストパソコンに必要なものは次の通りです。

- ▲ CCS Ver2.x, Ver3.x, Ver4.x

(本書には CCS Ver2.x 以前に関する解説は記述されていません、必要な場合は旧版のマニュアルをご覧ください。旧版のマニュアルはサポート契約中のユーザー様には無償でお送りします。)

- ▲ 双方向または EPP、ECP のパラレルポートのモードを持つ PC/AT 互換機

- ▲ Windows Vista / xp / 2000 (Me/98/95/NT4)

## 2. 取り扱い上の注意事項と保証期間

製品は、実用性を踏まえつつ、設計されておりますが、機構上長期間に渡る機械的負荷で損傷を受ける個所がございます。

製品を長期にわたって安心してお使いいただけますよう、製品には**機械的衝撃を与えない、ケーブル部に機械的応力(張力、荷重、ねじれ力)をかけない**ようお願いいたします。

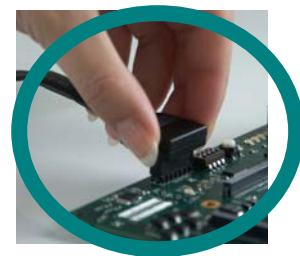
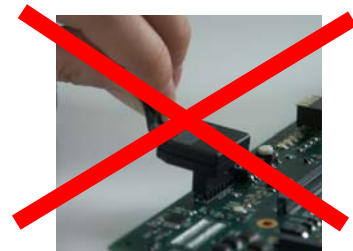
また、大電流を扱う機器、力率の悪い機器と AC を共用する環境では、フレームグラウンドの電位差による**循環電流を流さない**ようにホストパソコンとターゲットボードのグラウンドは POD とは別に**導線で常時接続**することをお勧めします。

また、製品の保証期間は一年間で、その期間内に正常な使用状況において故障した場合には修理は無償です。その期間を過ぎた場合には実費の修理となります。弊社からノンサポートの条件で購入された場合には、保証条件はこととなります。お問合わせください。

ロイノスではご購入後一年を経過した後でも、一年単位で継続サポートを承っております。新しい CCS や Windows に対応したデバイスドライバのご提供や修理サービス、各種無料サービス、割引が含まれます。ロイノス営業あるいはサービス部にお問い合わせください。

製品の構造上、JTAG コネクタの部分の接続が割と弱く、コネクタの挿抜の際にケーブルを引っ張るとコネクタ内部で接触不良が起き、CCS の動作が不安定となります。

**かならず JTAG コネクタのシェルをつまんではずすようにしてください。**



安全上の注意点はメーカー発行の文献に従ってください。

### 3. 梱包内容

#### (1)エミュレータ本体



XDS510PP PLUS の場合



SPI515 の場合

#### (2)本体用 AC アダプタと電源ケーブル



#### (3) パラレルポート用ケーブル



#### (4) デバイスドライバ



ロイノス編集 CD (SD エミュレータドライバ)



### 4. エミュレータ接続の設定確認

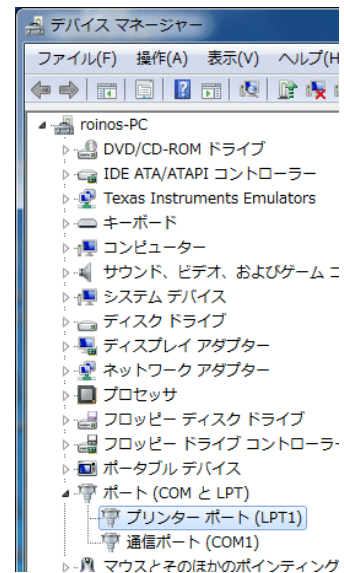
#### 4.1 BIOS の設定

パソコンの電源を入れた直後に設定できる BIOS 設定画面で、パラレルポートの動作モードを双方向(Bi-directional)あるいは EPP,ECP,EPP+ECP モードなど双方向の通信モードに設定してください。EPP があるようでしたら EPP としておいて下さい。パラレルポートの設定は BIOS の Integrated Peripheral の下にあることもあります。設定すべき場所が見つからないときは、お使いの PC やマザーボードの取説をご覧ください。



#### 4.2 デバイスの確認

Windows が起動した状態でコントロールパネルを開き、システム→デバイスマネージャのポートの項目を開いてください。LPT1 のプリンタポートがあるかどうか確認してください。PC のパラレルポートは通常 LPT1 に割り付けられています。このポートにエミュレータを接続することになります。



プリンタポート(LPT1)にカーソルを合わせ、プロパティ(R)をクリックしてください。そしてリソースタブを選んでください。

I/O の範囲を確認してください。この値を後にセットアップで使用します。ほとんどの場合 0x378 となっているはずですが。

